



あそびのひろば
こがげ



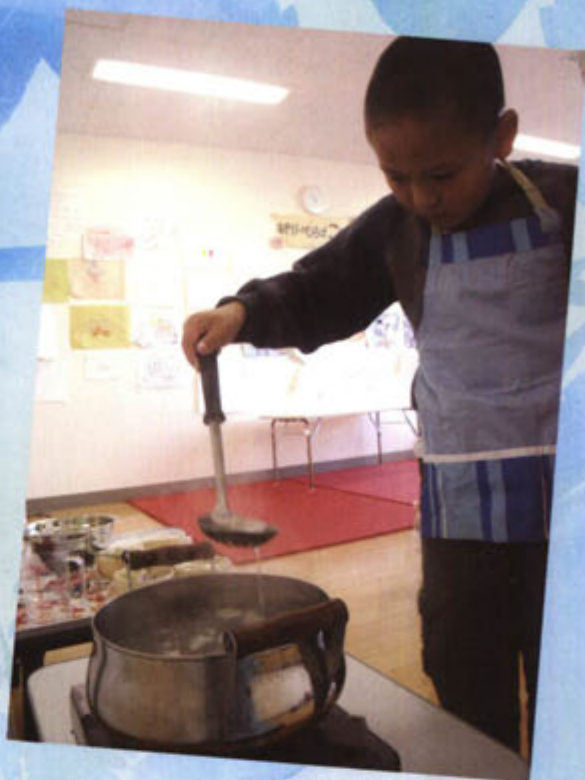
児童デイサービス



「あそびのひろば こかげ」の児童デイサービスには学校に上がる前のお子さんが、朝からお弁当の時間まで元気に遊びに来ています。朝、お母さんと一緒にとびきりの笑顔でこかげに入ってくると、すぐに朝のおしたくをします。初めはお母さんと一緒に準備をしていた子どもたちが徐々に自分の力でコップ、タオル、お弁当…と準備をしていく姿に大きな成長を感じます。

こかげでみんなが一番好きな遊びは公園遊びです。お天気の良い日はみんなと一緒に近くの公園へ遊びに行きます。公園内では他の保育園のお子さんに混じってとにかく元気に走ったり、ブランコや滑り台等の遊具で遊んだりしています。ときには、子ども同士で「何さい？」なんて会話をしていることもあります。他にも室内で行う小麦粘土やハンドペインティングもみんなが大好きな活動です。手をベタベタにして大はしゃぎです！

かわいい子どもたちの笑顔がいつでもあふれている…そんな「こかげ」でこれからも子どもたちの成長を大切にしていきます。



白玉が浮いてきたよ。
あついからそーっとそーっと...



アスレチックに挑戦!!
高い所は大好きだよ!



折り紙をちぎってのりでベタベタ...
桜の木をつくりました!!





障害児居場所づくり

楽しいこといっぱい「こかげ」ですが、地域の方々の温かい目に見守られながら、これからも笑い声のたえない「居場所」をつくりていきたいと思えます。

室内の遊びでは、調理の時間がみんな大好き！お好み焼きにホットケーキにハンバーガー…。毎月メニューを変えて取り組んでいます。作るのが好きな子も、食べるのが好きな子も、ときには素材の味を大切に（？）材料の味見をしたくなっちゃう子もいますが、みんなで協力しながら楽しく料理を作っています。

こかげでは出来るだけ外に出て地域の中で活動していますが、そんな中でも子どもたちに人気なのは、近隣のお店に行つて自分たちの好きなおやつを買う「お買い物」。迷ってなかなか決められない子、おやつは上手に選べるけどレジに並んで待つのが苦手な子、おやつよりも雑誌コーナーが気になっちゃう子…。みんなの興味はそれぞれですが、ちゃーんと最後には欲しいおやつを選んで買うことが出来ます。また、店員さんが声を掛けてくれたり、車イスの子のためにドアを開けてくれたりと、地域の方々に優しく接してもらったことも、お買い物を楽しむのひとつです。

「あそびのひろばこかげ」の居場所づくり事業では、小中学生のお子さんが放課後に集まって遊んでいます。



春は花見に限るねえ



今日は何をつくるのかな～？



ご家族の声

児童デイサービス

- こかげに参加するときは行くときもとても嬉しそうだし、帰りも充実した顔で帰ってくるので、そういう子どもの表情を見ると、とても良かったと思う。
- 月1回の調理プログラムで調理をする機会が多く、家でも夕方のお手伝いをしてくれるようになった。
- 集団生活の中で、少しの時間でも楽しんで笑いが見られるのでとても良かったと思う。家に帰っても、朝から私と二人でいるより遊んできたという感じで満足。
- 本人も満足そうにこかげから出てくるのを見て、私も嬉しい。できれば一度ビデオでもいいから活動の様子を見てみたい気がする（親が行くと様子が変わってしまうので...）。
- こかげに参加することは、本人にとってすごく良い刺激になっていると思う。また、スタッフと子どもの成長を確認し合えることは私にとっても嬉しいことになっている。

● 今まで親と離れると泣いて大変だったが、こかげに行くようになってからは、療育センターでも親と子別々でも全く平気になった。

● 家で一緒に料理するようになった。ホットケーキなどは自分から積極的に。

● 空耳かもしれないが車がとめられなくてこかげを通り過ぎた時、「こかげ行く」（泣）と言ったような気がしたことがある。とても好きな様子。

● スタッフの方が温かく、きめ細かく見守ってくれるのでいつもありがたいと思っている。

● いろいろな大人の人と関わることによ
り、人に慣れた。

● お友達のやっていることを観察し、今の状況を理解しているように見受けられる。他でも（公園等）周囲の子どもがどうやって遊んでいるか見て自分も遊べるようになった気がする。

障害児居場所づくり

● 楽しみの一つがふえたようで、こかげ用リュックを見せるとニコニコして用意をしている。

● 曜日感覚がわかるようになってきたかな、と思う。一週間のリズムが出来てきて、「明日はこかげに行く！」と前日に言うことがある。

● 以前は、なんでも言葉にしていた（相手の気持ちを考えず）が、こかげを利用するようになってからは、人にはそれぞれ事情があるということに気づいてくれた。

● 買物の時に落ち着けるようになった。自分の好みのものを指せるようになった。

● 何かができたといい成長よりも笑顔で受け入れてくださる場所がある、定期的に通える場所（学校以外）がある、ということが大変な子育ての中の支えとなっている。

● 毎回参加できることを楽しみにしている。単発ではなく、生活の中に定期的に利用している場として、楽しいことがあるということが親としても嬉しく思っている。

● 障がい児を受け入れてくれる学童が少ないため、利用させてもらえることにとても感謝している。

● 親ではない人と時間を過ごすというのは大切だと思っているので、子どもにとってもよい経験をさせてもらっていると思っている。

● あまり好きではないホットケーキなどを食べるようになった。皆と食べる体験が良かったのだと思う。

● 「お買い物」を長く続けていたでいるので、やっと最近だが自信がついてきたのか一人でジュースを買いに行くと言いだした。これまでは私の方から声をかけてみても二人で（一緒に）行くと言われていたのだが。

● 下校後の生活にメリハリがついたと思う。親や先生以外の人に対して、意識できることが多くなった。

● 他学年、他学校のお友達と過ごすことは息子にとっても刺激になっていると思う。こかげは単に障がい児を預かる施設ではなく、買い物学習や調理など、短いながらも内容が充実している障がい児の塾のように母としては感じている。